

子どものアレルギー発症に、スキンケアが効果あり？！

1歳までに「皮膚の湿疹が2ヶ月以上続いた」子どものアトピー性皮膚炎発症率は、「湿疹がほとんどなかった」子どもの7.9倍に。

「子どものアレルギー＆スキンケア」研究結果

【ロート製薬 ニュースレター】

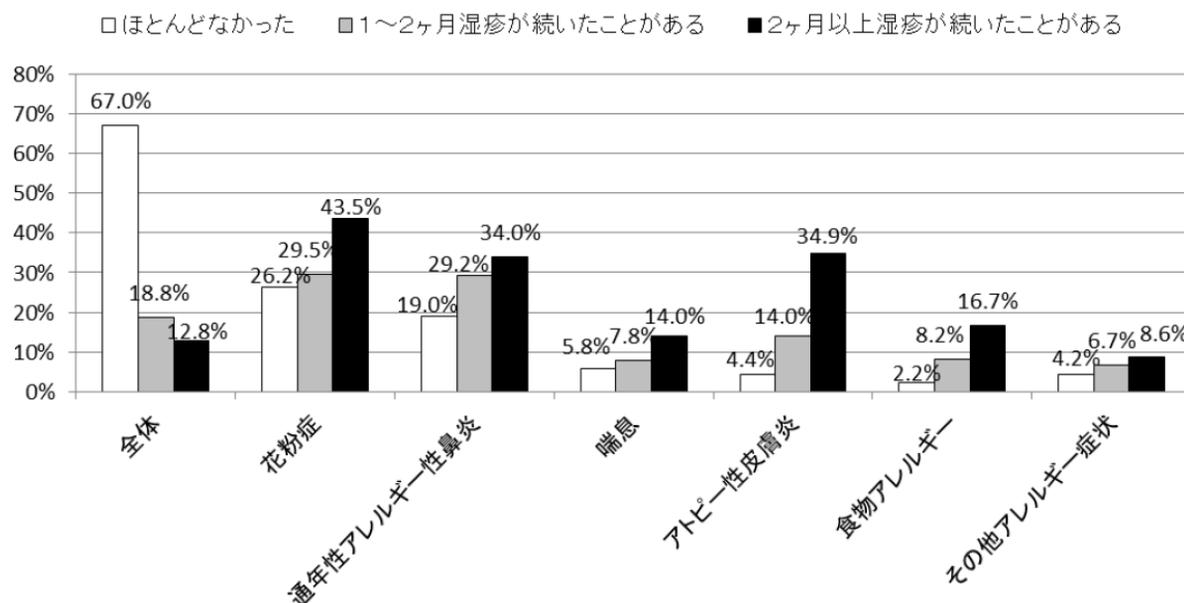
当社の以前の調査※1で、乳児期に皮膚湿疹が長く続いたことがある子どもほど、花粉症やアトピー性皮膚炎などのアレルギー症状が発症しやすいという結果が得られています。小児以降のさまざまなアレルギー疾患を防ぐためにも、小さな子どもの肌を守る適切なスキンケア方法の重要性がますます高まっています。お子さまに適切なスキンケアをしていただくために、気を付けたいポイントをご紹介します。

◆小さな頃の皮膚状態が、その後のアレルギー疾患の発症率に影響

近年では、「アレルギーマーチは皮膚から始まる」といわれています。当社が以前実施した「子どもの花粉症」調査※1でも、乳児期に皮膚疾患が長く続いたことがある子どもほど、アレルギー疾患に罹患していたという結果が得られ、「1歳までに皮膚の湿疹が2ヶ月以上続いた」子どもの花粉症発症率は、「湿疹がほとんどなかった」子どもの1.7倍。アトピー性皮膚炎発症率は7.9倍となっていました。

乳児期の湿疹をケアし、健康な状態を保つことが、小児以降のさまざまなアレルギー疾患（食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、花粉症（アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎）など）を防ぐためにも大切です。

【1歳までの皮膚湿疹の症状別】現在のアレルギー症状



※1 「子どもの花粉症」調査 2013年11～12月実施 0～16歳までの子ども n=3,475(父母2,082人対象) ロート調べ

次ページ～

- ◆小児のスキンケアのコツ… まずは「洗い方」から！
- ◆保湿の重要性… こまめな保湿がポイント！

◆小児の肌を健康に保つためのスキンケアのコツ

スキンケアの基本は洗浄と保湿。正しい洗浄方法で肌を清潔に保ち、しっかり保湿しておくことが大切です。特に気を付けたいポイントについて、いくつかご紹介します。

<洗浄のコツ>

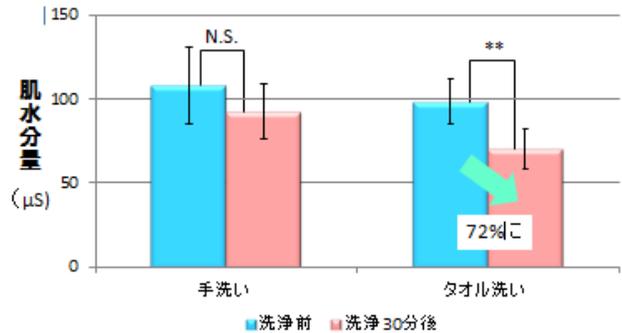
①手洗いが基本

同じ洗浄剤を用いても、洗浄方法により肌に与える影響は異なります。

手洗いとタオル洗いで肌の水分量の変化を確認したところ、タオルで洗った後は水分を失い、手で洗った後は水分をキープしていることがわかりました※2。

大切な肌を守るためには、ゴシゴシ洗いは避け、手でやさしく洗ってあげることが大切です。

手で洗うと水分量を保つ



※2 手で洗った時とタオルで洗った時の洗浄前後の肌の水分量を測定。n=6 ロート調べ

②よく泡立てて洗う

洗浄剤を原液のままつけると、洗浄剤の種類やお子さまの肌状態によっては、肌への刺激や負担になったり、洗い流した後に肌に残ってトラブルの原因になったりすることがあります。

必ず水を加えてよく泡立ててから使しましょう。

また、洗った後は、ぬるめのお湯でよく洗い流して、**すすぎ残し等がないように気をつけましょう。**泡立てるのが面倒な方や、お子さまがご自分で洗う時などきちんと泡立てられるか不安な場合は、最初から泡で出てくる洗浄剤を使うのもおすすめです。



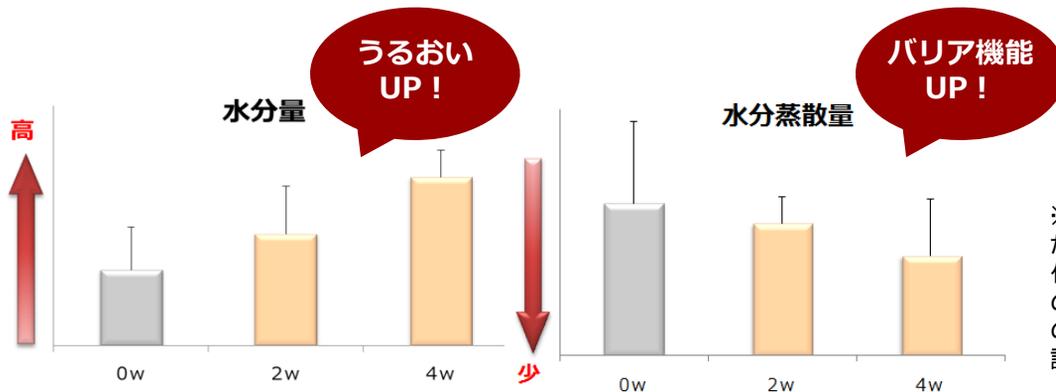
<保湿のコツ>

①ふいたり洗ったりした後は必ず保湿

こどもの肌はみずみずしく、うるおいたっぷりのように見えますが、実は生後3ヶ月頃から皮脂の分泌が急速に減り、非常に乾燥しやすい状態になっています。特に、汚れをふいたり洗ったりすると、汚れと一緒に皮脂も落としてしまい、そのままではバリア機能が低下してトラブルの原因になるおそれがあります。

洗浄後に保湿剤でしっかりケアをすると、**保湿剤を塗った直後だけでなく、日中も肌の水分量が増え、バリア機能が高まる**ことがわかりました※3。

肌トラブルを防ぎ、健康な肌を保つためにも、**洗った後はなるべく早く、保湿剤でしっかり保湿。**また、洋服などでこすれて落ちてしまうこともありますので、1日2~3回こまめに塗り直してあげるとより効果的です。



※3 洗浄+保湿を4週間継続した時のすねの角層水分量の変化を調べた。また、バリア機能の指標として経表皮水分蒸散量の変化を調べた。n=10 ロート調べ